

相当ヤバイ安倍政権

ヤバイなという裏社会用語(?)が市民権をえて、軽いノリで使用されていますが、安倍さんは本来的な意味でヤバイ。本来、彼の思想、政治姿勢は、表に出るはいけないものではないでしょうか。

現在の日中関係を第一次大戦前の英独の關係に例えての発言や、中国の周りをグルグル回り、トーナッ外交などと揶揄される精力的で「わかりやすい」外交。反中、反韓の姿勢。それは政治姿勢などというものではなく、建設的な展望も持たない単なる排外主義です。書店に数限りなく置いてある反韓、反中の本と同じ、「韓国、中国は嫌いだ。日本は悪くない」という「主張」をくりかえしているだけです。

幼弱的です。子どもです。12月26日に靖国参拝したあとで、中国、韓国に「常に対話のドアは開かれている」などと言うのは常軌を逸している。それにこの人、「お友だち」以外の人、意見の違う人とのついでに対話できるのでしょうか。なんとというか、「つぎめけてくる」感です。それは、靖国参拝を契機としてますます強くなっています。シチオリンピックをさんざん政治利用しましたが、フィギュアの羽生選手が優勝したときなどは、「オサマザマ電話して、「日の

丸をまじった美しい日本男児」などと言う。変な言葉をつくらないで話してきなさいのではありませんか。私なら、「いわゆるファン」キ状態です。

安倍晋三。この人はどこを向いているのだろうか。おそろしく、足元ではなぐもつと遠くの日本を見据えているつもりかもしれない。でも実際に見ているのは、お祖父ちゃんらの「霊」なのではないか。

つきぬけた思考の持ち主である安倍首相は、憲法改悪も、96条改憲もできないとなると、国家安全保障基本法で、実質改憲しようとし、これも難しくなる。なんと、閣議決定で、憲法解釈を変えて、その後で、自衛隊法や周辺事態法などの関係法の整備をするという。今年の暮れになされるという日米防衛協力指針の再定義に間に合わせたいらしいです。無茶の極みです。この乱暴なやりかたは、さすがにフリーキ役を自認する公明党だけではなく、自民党さえ、総務懇談会を開き、討議をおこないました。そこでは異論が多発したそうです。

先に、立憲主義を問われて、そんなものは絶対王制の昔の話だという迷回答をした安倍さん。どういつ民主主義理解なのでしょう。国会軽視はなほだしいものがあります。安倍首相は、私が最高責任者だと言いつつっており、何事も閣議決定ですませようとする。憲法解釈も、エネルギー基本計画も閣議決定だし、武器輸出三原則の見直しも、閣議でするそうです。でも閣議決定すればまだいいほうで、東南アジア訪問時にいきなり、集団的自衛権の話し

を出したり、2007年には、アフガニスタン問題を議論するNATOの理事会に出席して「日本人は自衛隊が海外で活動するところをちゅうちょしない」などと勝手に発言した人です。「国際公約」で既成事実をはかる人です。福島は完全に「コントロール」されているなど、ウソも平気でつく人なので、3月24、25日の核安保サミットで「核燃料サイクル推進」を表明するのではないかと懸念がささやかれています。

このつきぬけた感じのヤバさは多くの「お友だち」にも共通です。安倍さんを支援するはずの「お友だち」の援護射撃はこんでもないものばかりです。NHK会長、萩井さんの「従軍慰安婦はどこでもあった」政府が右というものを左ということではできない「をはじめ、百田、長谷川の妄言。衛藤首相補佐官。小松一郎内閣法制局長官の言動。内閣官房補佐の本田悦朗の「アベノミクスの目的は強力な軍隊をもって中国と対峙するため」というのもあります。まさにお友だち大暴走大会でした。

靖国参拝後は、アメリカも「失望した」と表明し、怒りを表し、アメリカ大使館は、NHK「クロースアップ現代」の取材を拒否したと言われています。これ以上失言がでればアウトと思われるなか、米は安倍政権を「コントロール」し始めているようにも見えます。従軍慰安婦制度への旧軍の関与や強制制を認め、謝罪した河野談話を見直すことを止めさせ、朴槿恵大統領の「幸いに思う」をひきだし、日韓首脳

会談も実現しませんでした。(ただし安倍政権は「調査」は行つて言っています)、萩生田光一総裁特別補佐は「調査後」新たな談話を出すかもしれないなどと援護発言しています。(キャロライン・ケネディ大使は、今度はNHK「クローズアップ現代」の取材に応じ「近隣諸国との緊張がたかまることに懸念をしましめ、(ウキをこころ)日米関係の前進」を表明しました。

この異常な安倍政権がアメリカのコントロールに入るのが、本当は一番バイクーかも知れませんが、アメリカが実を取ることを最優先すれば、最悪の事態となる。「お友だちは誰ひとりやめてはいないし、内閣改造などの人事話がでると、公明や自民の人たちは静かになるかも知れない。それを見越してか、安倍首相は、防衛大の卒業式で、憲法解釈への意欲を示したという。その時「日本近海の公海で、ミサイル防衛のため警戒にあたる米国のイーシス艦が攻撃を受けるということがありうる。それでいいのか。現実的な対応が必要である」と話したそうです。石破幹事長も23日、集团的自衛権行使容認を、具体的なケースに即して討議をするとして、首相の言った「米艦船防護」と「米国」向かうミサイルの迎撃を自衛隊に認める必要」をあげたそうです。あいかわらずの非現実的な場面設定です。前後の脈絡なしに、どこの国がアメリカに突然戦争をしかけた、という設定でどうするか。現実的かどうか、妄想する軍国主義者です。でも、戦争は軍国主義者の妄想から始まります。

いくら異常な政権とはいえ、法律として成立したものの、事案として決定したものは現実に動き始めます。

12月6日に、多くの反対を無視し、「コリ押し」で通した特定秘密保護法。今、読売の渡辺恒男が座長となり、情報保全諮問会議が続けられています。このなかでもさまざまな問題点が指摘されています。特定秘密保護法は1年後の施行までに廃案としなければなりません。

12月4日に成立した日本版NSC(国家安全保障会議)は非公開、議事録なしでの秘密裏の会合をつづけていて、特定秘密保護法と一体のものとなっています。その構成は首相、官房長官、外相、防衛相の四大臣会合、緊急事態会合、9大臣会合などがあります。これまでに(2月末)四大臣会合が七回、九大臣会合が六回開かれているそうです。(中日新聞による)

2月17日に閣議決定された、国家安全保障戦略は、安倍内閣が外交防衛の基本指針としてきたためのもので、積極的平和主義(武力を使うということ)による国際貢献をつたい、中国の動向を国際社会の懸念事項と並び、愛国心の育成などにも言及しています。これが「国の方針」とされ、これに従って政策がうちだされるということです。沖縄竹富町教育委員会は、教科書採択地区協議会が答申した問題点の多い育鵬社の教科書を拒み、東京書籍の教科書を選び、町財源で教科書を配布してきました。地方教

育行政上、違法でもななくてもないのに、3月14日に下村文科相が「違法」として、育鵬社の教科書を使うよう指示してきたのです。このような統制も増えているのでしょうか。政府は愛国心をやしなうための学校教育や社会啓発を考えているそうです。(政府は少子高齢化のなかで日本の人口・労働人口が減り、2060年には人口は7500万人となり、毎年200万人の「移民」が必要とされています。必要なのは多文化共生の実践ではないでしょうか。日本人はもはや絶滅危惧種です。安倍さん。足元をみなさい。遠くに視線を投じて、妄想しているときではないでしょうか。)

問題は装備・兵器がどうなっているかです。昨年8月6日、ヘリ搭載護衛艦「いずも」の進水式がありました。この艦船は全長248メートル、排水量19500トン。ヘリコプター9機を搭載でき、船首から船尾まで甲板が平らになっており、大きさは戦前の空母「翔鶴」「瑞鶴」に近く、「ヘリ空母」ともよばれる。総工費1200億円。自衛隊は攻撃型兵器である空母を持つことができないとされているので、空母とはよばない。攻撃型兵器といえ、空中給油機が小牧基地に4機配備されています。これも給油もできる輸送機とよばれています。「おおすみ」なども輸送艦とされていますが、強襲揚陸艦です。浜松にはAWACS(空飛ぶ司令部)が配備されています。安倍政権登場以前から、専守防衛を逸脱するようになり、兵器が装備されつづけてい

るのです。

12月17日国家安全保障会議と閣議で、新しい防衛大綱と中期防衛計画を決定しました。新防衛大綱では、中国を念頭に、水陸両用部隊の増強による島嶼防衛の強化、陸海空自衛隊の連携による「統合機動防衛力」をうちだしており、中期防では水陸両用車2両、オスプレイ17機、無人偵察機3機などの導入をきめています。これで南西諸島、沖縄の人は安心となるでしょうか。事態は逆です。ますます緊張を煽る結果となるのです。沖縄戦の教訓の一つは、一番危ないところは軍事基地のあるところということです。日本はすでに中国との軍拡競争にはいるっているのです。武器輸出も解禁され、軍事産業は大喜びでしょうか。

安倍首相の思想の根幹は歴史修正主義で、政治は軍国主義です。それを象徴するエピソードがあります。南スーダンに派遣された自衛隊が、インド軍の宿営地の間に橋をかけたそうです。その名がパールブリッジというそうです。なかまブリッジなどと読ませていますが、パールとは東京裁判のパール判事のことと想われます。私たちがこれまで自衛隊基地におもむき、申し入れ等おこなってきたときは、今まで「私たちは旧軍とは関係ありません」と説明してききましたが、安倍政権の歴史修正主義のなかで、旧軍思想もよみがえりつつあるのではでしょうか。

このままいけば必ず戦争はおきます。すでにそれを望んでいる人もいるかもしれません。集団的自衛

権の行使とは、日本と直接には関係ない国と戦争をして、その人を殺すということです。イラクでアフガニスタンでこれだけの子ども達、市民が殺されたのか。想いをめぐらせなければなりません。なぜそんな戦争をする必要があるのか。それこそ、妄想の世界ではなく、現実的にリアルな戦争を考えてみなければなりません。

作家の半藤一利さんは自衛隊が「軍」になるということは、「クーデターがおこせる」ということ、それだけ国内への発言力や影響力を増していく「軍隊はそもそも三権の外にあるものです。軍隊の権限は『原則自由』で、例外的に国際法の制限に服するものです。それが軍隊です。」といっています。自衛隊が軍となれば、日本社会は根本的に変わることになります。そして社会は軍隊化します。

ミサイル搭載護衛艦たちかせにおいて、いじめがあり、2004年10月27日に一等海士が飛び込み自殺をするという事件がありました。裁判の結果、「いじめは日常茶飯事、常習的」「自殺は暴行を苦にした」と認定し、賠償を命じました。しかし、自衛隊からの謝罪は一切ありませんでした。のみならず、内部告発した隊員は処分をつけました。社会が軍隊化するといふことは、こういうことだと思えます。

しかし、都知事選での60万票をとった田母神とい、安倍とい、若者の支持が高いのも事実です。テレビのバラエティーにも出演し、少しオバカで暴走するイメージ、暖かみを感じて、シンパシーをもつのででしょうか。「毒舌」が流行っているのと同じ

る気がします。この問題はもう少し考えなければなりません。

3月24日 八木 巖



い ず も